

日本藻類学会第 48 回大会ワークショップ 1 「淡路島の藻類採集・観察会」に参加して

如澤 侑汰

本大会のワークショップは「海藻類の採集・観察会」と「微細藻類の採集・観察会」の2つのコースが2024年3月25日に兵庫県淡路市岩屋にある神戸大学内海域環境教育研究センターマリンスイトで開催され、私は海藻類のワークショップに参加しました。今回初めて藻類学会に参加し、自身の研究対象種であるホンダワラ類に限らず、様々な海藻に触れることの重要性を改めて感じました。普段は北海道の海藻を研究対象としているため、ワークショップでは温帯性の海藻をより多く見つけようと意気込んでいました。

まず、実習室で上井先生と大沼先生からそれぞれのコースの概要について説明をいただいた後、海藻組と微細藻組に分かれて採集を行いました。私が参加した海藻のコースでは最干潮の時間帯を狙って、今回の採集地点である大磯漁港へと移動しました。大磯漁港では、波打ち際にイロロやイシゲ、潮間帯上部にアオノリ類やフクロフノリ、中部から下部には、ヒジキ、タマハハキモク、ワカメなどが生育していました。北海道の海藻を見ている私にとって、イロロやイシゲ

は見慣れない海藻でした。私の研究材料であるホンダワラ属の海藻については、特段の注意を払い、どのような種類が生育しているかを観察していました。特に印象に残っていることは、タマハハキモクが繁茂しているなかからヨレモクモドキを発見した時に、興奮のあまり付着器ごと採ろうと肩まで海水に沈め、全身が濡れてしまったことです。参加者それぞれの目的で磯全体を散策し、採集を終えた後、マリンスイトに戻りました。大会期間は天気が悪く、ワークショップでの天候が心配されましたが、採集中も雨は降らず、無事に採集を行うことができて本当に良かったです。

実習室では参加者が各々で観察を始め、種同定、顕微鏡観察、押葉標本の作成などの作業をしました。全員分を合わせると、自身が磯で観察できた種数よりもはるかに多く、緑藻 11 種、紅藻 21 種、褐藻 30 種が採集されました。種同定ではムカデノリ、ヒラムカデ、ヒロハノムカデノリの違いについての議論やアミジグサ属やコモングサ属 (*Spatoglossum* 属) の種分類の情報などのお話をお聞きすることもできました。いつまでも議論を続けたかったのですが、私は翌日に実施される卒業式に参加する予定だったため、最後まで種同定をすることはできませんでした。しかしながら、普段見られない海藻を観察できただけでなく、参加した先生方や学生のみなさんと議論しながらの種同定は、私にとって、非常に貴重な経験でした。

本ワークショップでは、普段とは異なる環境で採集や普段見ることがない海藻に触れることができただけでなく、参加者との交流を通して自身を顧みる機会にもなりました。特に種同定をする時に、同じ研究分野の先生方や学生のみなさんと比べて自身の知識量の少なさを強く感じたため、日頃から自身の研究対象だけでなく、幅広い視野をもちながら研究をすることを決意しました。そして、今後もこういった機会があれば積極的に参加し、様々な人と交流し情報交換をした



海藻の観察・同定 (写真提供：上井進也氏)。

大磯漁港に生育する海藻

緑藻 (11 種)	オバナハネモ、ワタシグサ、ツヤナシシオグサ、ミル、クロミル、ヒトエグサ、アナアオサ、ポタンアオサ、ボウアオノリ、ウスバアオノリ、スジアオノリ
紅藻 (21 種)	フノリウシゲ、スサビノリ、ビリヒバ、無節サンゴモ、マクサ、オバクサ、フクロフノリ、シキンノリ、スギノリ、ツノマタ属の一種、オキツノリ、ユカリ、ベニスナゴ、オゴノリ属の一種、ムカデノリ、ヒラムカデ、フダラク、フシツナギ、イソハギ、ヤレウスバノリ、ユナ
褐藻 (30 種)	イロロ、イシゲ、サナダグサ、アミジグサ、フクリンアミジ、ヤハズグサ、シワヤハズ、ウミウチワ、モンナシグサ属の一種、クロガシラ属の一種、ハバモドキ、フトモズク、ネバリモ、シオミドロ属の一種、シワノカワ、ウスカワフクロノリ、フクロノリ、カゴメノリ、ワタモ、セイヨウハバノリ、ウスカヤモ、カヤモノリ、ムチモ、ワカメ、カジメ、ヒジキ、ヨレモクモドキ、アカモク、タマハハキモク、ウミトラノオ

いと思われました。最後に、本ワークショップの企画、準備、運営にご尽力いただいた神戸大学の上井進也先生、星野雅和先生、大沼亮先生、神戸大学内海域環境教育研究センターマリンスাইトの職員の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(北海道大学大学院)



採集風景.

2024 年度藻類談話会のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。これまでの談話会の講演内容は、藻類談話会ホームページ (<http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/danwakai/index.html>) でご覧いただけます。今年度は以下の講演を企画しています。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2024年11月2日(土) 13:00-17:00

場所：神戸大学理学部 Z 棟 1 階 Z103 室
(神戸市灘区六甲台町 1-1)

研究報告(敬称略)

森本 冬海, 本多 大輔 (甲南大院・自然科学, 甲南大・理工):
原生物ラビリンチュラ類の海洋生態系における役割の解明に向けて—魚類の DHA はどこからくるのか—

講演(敬称略)

松崎 令 (大阪工大・工):

雪氷環境に適応した微細緑藻の種分類学

山野 隆志 (京大院・生命):

藻類の非膜オルガネラ「ピレノイド」のダイナミクスと形成機構

熊谷 直喜 (国立環境研・気候変動適応セ):

気候変動に伴う大型褐藻類の地理的分布変化

参加費：談話会への参加は無料。談話会終了後、会場近辺で懇親会を行います(懇親会会費：一般 4,000 円, 学生 2,000 円)。談話会および懇親会の参加希望者は 10 月 23 日(水)までに下記の宛先へお申し込みください(当日参加も可)。詳細につきましては、申し込まれた方に後日ご連絡いたします。

会場への交通：阪急「六甲」駅から徒歩約 15 分。阪神「御影」駅, JR「六甲道」駅, 阪急「六甲」駅から神戸市バス 36 系統「鶴甲団地」行, 「鶴甲 2 丁目止まり」行きに乗車, 「神大文理農学部前」下車。交通アクセス・キャンパスマップ(<http://www.sci.kobe-u.ac.jp/access/index.htm>)にも掲載されています。

参加申込み・問い合わせ先

京都大学大学院人間・環境学研究科 幡野 恭子
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

FAX : 075-753-2957 e-mail : sourui_danwakai@yahoo.co.jp